

# 淡路島の蝶類調査報告

広畑政己

登日(1974)によると、淡路島で1974年までに採集及び目撃された蝶は偶産種も含め8科69種が報告されている。その後高田忠彦氏、井手敏晴氏の分布調査によって、ウラミスジシジミ、ウラジロミドリシジミ、ヒロオビミドリシジミ、ウスイロオナガシジミなどの *Ze-pyrus* 4種と石原ほか(1973)のヤクシマルシジミなどが加わり現在では8科76種に達している。

この中にはミカドアゲハ、エゾスジグロシロチョウ、クロシジミ、スミナガシなど採集例が極めて少ない種があるが、筆者はこれらの種のうちミカドアゲハ、エゾスジグロシロチョウの2種と、食草のツメレンゲがあるがまだ発見されていないクロツバメシジミの分布調査に淡路島を訪れた。

この度の分布調査の主目的であった前記3種については期待通りの成果を収めることはできなかったが、調査の過程でシルビアシジミの新しい生息地を発見することができたので、ミカドアゲハの淡路島に於ける土着の可否についての思考などを交えてその結果を報告した次第である。

調査に当っては尾崎勇、登日邦明氏に御協力いただいた。いつもながらの御厚意に深く感謝申し上げます。

## 1. ミカドアゲハは淡路島で土着できるか

本種は九州から南西諸島にかけては広く分布しているが、食樹であるオガタノキ属のオガタノキやモクレン属のタイサンボクなどの分布が温暖な地域に限られるため、近隣での本種の生息地は四国、和歌山県、三重県など太平洋沿の暖かい地域にしかその生息地が知られていない。

淡路島ではこれまでわずか2例(津名郡津名町佐野 — 1958 1♂ 登日邦明<sup>2)</sup>、同町志筑明神 — 1964 2 exs. 奥野修久<sup>2)</sup>)が知られているだけで、これら3頭の個体は四国、和歌山などの産地から飛来したものと考えられている。

本種が土着するためには当然のことながら食樹が分布していることと越冬できるだけの冬期気象条件が満たされていなければならない。

主な食樹であるオガタノキは兵庫県では姫路市網干の魚吹神社、神崎郡市川町下瀬加の神積神社、同郡福崎町福崎高校校庭、神戸市垂水区の太山寺などが知られており、その数は極めて

て少なく、淡路島でも沼島<sup>3)</sup>と洲本市中津川の白髭神社が知られているだけで、本種が生息するには少々ものたりない感じがする。しかし四国の生息地に於て自然状態で食樹になっているタイサンボク<sup>7)</sup>は淡路島でも庭木として植えている家が多く、本種が飛来すれば食樹に遭遇するチャンスがオガタマノキだけの場合よりはるかに多くなるということになる。

一方冬期の温度についても、1979年12月～1980年3月の姫路市に於ける自然状態での越冬実験で充分越冬できることを確認している。実験には高知県産の2頭の蛹を使用し、樹高1メートル程のサザンカにつるし、12月から3月までの4ヶ月間そのままの状態に放置した。この間の気温は表1の通りで、4ヶ月間の平均気温は3.4℃、最低平均気温は0.4℃で越冬しており、姫路市より温暖な淡路島では冬期の温度もなんら問題はないものと思われる。

表1. ミカドアゲハが越冬した姫路市の気温(℃)

月	平均気温	最高平均気温	最低平均気温	最低極値	0℃以下の日数	平年差
12月	7.3	13.5	2.3	-1.8	7	+1.9
1月	3.8	9.3	-0.5	-5.0	23	+0.3
2月	3.0	8.9	-1.9	-6.1	23	-1.2
3月	6.9	12.2	1.8	-1.9	11	+0.3

(1979年～1980年, 姫路測候所調べ)

淡路島に隣接する徳島市眉山では5月中旬ごろより多数の個体が得られており、<sup>1)</sup>個体群の密度も高くなっているようである。従って近接する淡路島には飛来する頻度も高くなっている。このような理由から淡路島でも土着しているのではないかと淡い期待を持って洲本市中津川などを訪れたが結局本種を発見することができなかった。しかし満足とはいえないが土着の条件も整っているので今後よく調査を行えば再発見できるものと希望は捨てていない。

## 2. シルビアシジミの新しい生息地

淡路島では本種は現在までのところ津名郡富島、大町、洲本市安乎町、中川原町、竹原、曲田山<sup>5)</sup>から記録されている。

新しい産地は洲本市津田と東浦町釜口で、いずれも水田の土手に本種は生息している。洲本市津田ではミヤコグサとコマツナギが見られたがミヤコグサが多く、釜口では何段にもなった土手一面にミヤコグサが咲き乱れていた。

しかし本種の個体数は食草に比較すると少なく、双方で8頭を確認しただけである。

食草が多いことと時間的な関係もあって卵や幼虫の確認はできなかったが、ミヤコグサを食草としているようである。この他にもミヤコグサの生息地を数ヶ所発見した。よく調査を行え

ば全島にはまだかなりの産地があるものと思われる。今後の調査を期待したい。採集記録は次の通りである。

洲本市津田 11 V 1980 1♂ 広畑政己  
 東浦町釜口 11 V 1980 2♂2♀ 広畑政己  
 11 V 1980 2♂1♀ 尾崎 勇

### 3. エゾスジグロチョウなどその他の採集記録

この度の調査はミカドアゲハ、クロツバメシジミが主目的であったため、シルビアシジミの他は新しい知見は得られなかった。しかしこれまで津名郡常隆寺山麓<sup>3)</sup>と北淡町江崎<sup>6)</sup>の2ヶ所しか記録のなかったエゾスジグロシロチョウを佐野興隆寺で再び採集した(津名郡佐野興隆寺 11 V 1980 1♂1♀ 広畑政己, 同 2♂ 尾崎 勇)。発見した産地は佐野の部落を過ぎた谷あいの川筋で、採集した個体はすべて本種で、スジグロシロチョウの姿は見られなかった。食草などについては残念ながら確認ができていない。その他の採集記録については表2の通りである。

表2. 採集記録一覧表

種名	地名	洲本市中津川	洲本市津田	東浦町釜口	津名町佐野
アゲハチョウ		○			
ジャコウアゲハ		○			
カラスアゲハ		○			
モンシロチョウ		○			○
エゾスジグロシロチョウ					○
モンキチョウ				○	
ツマキチョウ		○			
キタテハ					
ヒメアカタテハ				○	
コミスジ		○			
ヤマトシジミ		○	○	○	○
ルリシジミ		○	○	○	
シルビアシジミ			○	○	
ベニシジミ		○	○	○	○
ツバメシジミ		○	○	○	
ヒメウラナミジャノメ		○			○

(採集日…… 1980年5月11日)

### 参考文献

- 1) 天羽龍太郎(1977)徳島県のミカドアゲハ 昆虫と自然 Vol. 12 №3
- 2) 山本広一(1969)兵庫県下のミカドアゲハについて 兵庫生物 Vol. 6 №1
- 3) 登日邦明(1974)淡路島の蝶相(1) 住香蝶 Vol. 26 №98
- 4) 高田忠彦・井手敏晴(1978)兵庫県産蝶類調査報告 MDK NEWS Vol. 28 №79
- 5) 石原ほか(1973)本四架橋ルート of 島々の昆虫相 本四架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書(動物)
- 6) 広畑政己(1980)エソスジグロシロチョウの採集記録数例 ひろおび №5
- 7) 日本鱗翅学会四国支部(1979) 四国の蝶 高知

### ゴイシジミ淡路島に産す

淡路島から未記録のゴイシジミ(*Taraka hamada Druce*)が、洲本市で採集されたことを確認したので報告する。

- (1) 採集年月日 1980年6月1日 1♂  
採集地 洲本市中川原町安坂  
採集者 前川和昭
- (2) 採集年月日 1980年7月20日 1♂  
採集地 洲本市中川原町安坂  
採集者 前川秀樹(安乎中2年)

なお、8月5日にも同所でかなりの個体を確認し、そのうち数頭を採集されたそうである。資料の提供をいただいた前川和昭氏と前川秀樹君に厚くお礼申し上げます。(堀田 久)

### トラフシジミ三熊山にも産す

淡路島での *Rapola arata Bremer* トラフシジミの既知産地としては、南淡町灘、阿万、諭鶴羽山などが知られるだけで、全国的には普通種であるが、淡路島内では比較的希な種とされている。

筆者は、本年(1980)7月13日に洲本市の三熊山に出掛けた際、本種の比較的新鮮な1個体を目撃したので記録しておく。(登日 邦明)